

2025 年 6 月 30 日

【SUPER GT 第3戦 /セパン・インターナショナル・サーキット レポート】

**5 年ぶりの海外ラウンドでヨコハマタイヤ勢がダブルポール！
決勝では UPGARAGE AMG GT3 がポールトゥウィンで今季初勝利を飾る**



コロナ禍で 5 年途絶えていた SUPER GT の海外ラウンドが、今シーズンようやく復活した。舞台はマレーシアのペトロナス・セパン・インターナショナル・サーキット。セパンでのレースは 12 年ぶりとなる。GT300 クラスは、海外ラウンドは前年の年間成績に応じて得られるシード権を所有しているチームと、特別枠としてマレーシアの現地チームが出場でき、今回出場する 19 台のうち、ヨコハマタイヤユーザーは 8 台。また日中の酷暑を避けるため、予選、決勝ともに現地時間午後 4 時 30 分からのスタートとなっている。

公式予選は、GT500 クラスでは WedsSport ADVAN GR Supra がライバル勢を圧倒するスピードを披露。Q1 を担当した国本選手が唯一 1 分 50 秒台にタイムを入れて堂々のトップ通過を果たすと、Q2 でポールポジション争いを託された阪口選手はただ一人 1 分 49 秒台入りを達成する。1 分 49 秒 748 でポールポジションを獲得。これまでのコースレコードタイムから約 4.6 秒縮め、阪口選手は新たなコースレコードホルダーにも輝いた。リアライズコーポレーション ADVAN Z は、Q1 で他車との間隔をあける中でアタックタイミングをずらさざるを得ない状況となり、13 位に。残念な結果となったが、公式練習で 2 番手と好調を見せていただけに決勝での挽回が期待された。GT300 クラスでは、UPGARAGE AMG GT3 がルーキー野村選手の果敢なアタックで今シーズン初ポールポジションを獲得。「VENTENY Lamborghini GT3(小暮卓史選手／元嶋佑弥選手)」と「METALIVE S Lamborghini GT3(松浦孝亮選手／坂口夏月選手)」がそれぞれ 3 位と 4 位に入り、表彰台を目指せるグリッドを確保した。



昼間は汗が噴き出るような暑さだが、夕方になると日差しも和らぎ、幾分か過ごしやすい陽気となるセパン。それでも南国特有の蒸し暑さは変わらぬまま、28日(土)に55週の決勝レースがスタートした。GT300クラスは、オープニングラップで1つ順位を下げたUPGARAGE AMG GT3にVENTENY Lamborghini GT3が近づき、2台の接近戦が10周以上続いていく。19周を終えてVENTENY Lamborghini GT3がピットへ向かったことでこのバトルは終了を迎え、UPGARAGE AMG GT3の野村選手はペースを上げていくが、この時点でトップとの差は大きく開いていた。25周目に相手が先にピット作業に向かうと、野村選手は一気にペースを上げて周回し、翌26周目にピットイン。相手チームにミスがあったことも味方し、9秒ほど開いていた差を詰めるどころか、大きく差をつけてピットアウトに成功した。もちろん、1周前にコースに戻ったライバルはすでにタイヤが温まっているため、その差は削り取られてしまうが、交代した小林選手もタイヤに熱が入ってからペースアップ。6秒前後のマージンを保って周回していった。盤石ともいえるレース運びでUPGARAGE AMG GT3はトップチェッカー。小林選手は2013年のセパン大会でも勝利しており、12年の年月を経ての連勝に。野村選手はルーキーイヤーでの嬉しい初優勝となった。



また、レースを盛り上げたのは3位争い。小暮選手にドライバー交代したVENTENY Lamborghini GT3と、8番手スタートからピットタイミングでのアンダーカットに成功して4番手まで上がっていた「グッドスマイル 初音ミク AMG(中山友貴選手／奥本隼士選手)」が手に汗握る超接近戦を繰り広げていたのだ。今大会は別のレースと重複していたこともあり、グッドスマイル 初音ミク AMGはレギュラードライバー2人が欠場。代役として選ばれた奥本選手がこの時はステアリングを握っていた。GT500のチャンピオン経験もある小暮選手に対し、今回がGTデビューレースの奥本選手が食い下がる。ペースでは奥本選手がやや優勢に見えるものの、小暮選手もベテランの技で要所をブロック。2人の激しくもクリーンな戦いはレース終盤、47周目に決着を見る。2コーナーでできた小暮選手のイン側スペースに奥本選手が鋭く切り込み、3位浮上の突破口に。こうして表彰台の最後の一角をグッドスマイル 初音ミク AMGが獲得し、ヨコハマ勢が1-3フィニッシュを飾ることとなった。



GT500クラスは、ポールシッターのWedsSport ADVAN GR Supraが序盤レースをリードしていたが、中盤になるとライバル勢がペースを上回り、20周を終えるところで交代。国本選手からバトンを受け取った阪口選手も序盤は好ペースでギャップを詰めていったが、35周というロングスティントの中で終盤はペースに苦しむように。それでもミスなく粘り強く戦い切り、5位フィニッシュで今季初入賞となった。リアライズコーポレーション ADVAN Zは、フォーメーションラップが始まるところで車両トラブルが発生。そのままピットロードに進むとガレージに運ばれた。メカニックたちは懸命に修復を試みるも、レースへの復帰は叶わず、リタイアとなった。

■小林崇志選手 (UPGARAGE AMG GT3)

【今回の成績：GT300 クラス 優勝】

予選で野村選手が素晴らしいアタックを見せてポールポジションを獲ってくれたところから流れをつかんでいたように思います。開幕から2戦はかみ合わないレースが続きましたが、その悔しさをバネにしてチームがいいクルマを作ってくれて、ヨコハマタイヤさんが最後までしっかり走れるタイヤを作ってくれたからこそこの勝利。皆さんのおかげで優勝できたと思っています。

■野村勇斗選手 (UPGARAGE AMG GT3)

【今回の成績：GT300 クラス 優勝】

デビュー3戦目で優勝できたことは、嬉しいと同時に驚いています。素晴らしいクルマを用意してくれたチームと、素晴らしいアドバイスをくれる小林選手のおかげなので、本当に感謝しています。セパンを走るのは今週末が初めてだったのですが、少しずつ特性を理解し、予選ではタイヤのパフォーマンスも高い中1周をまとめることができて良かったです。

■国本雄資選手 (WedsSport ADVAN GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 5位】

決勝の序盤はいいペースで走れましたが、タイヤの温度が想像以上に上がってしまい、そこからはグリップが不足して苦しい展開となりました。GT300クラスのトラフィックについては僕たちの苦手な部分でもあり、そこでペースを保てない場面もありました。暑い時期のレースに対しての課題はありますが、全体を通してみればミスなく戦えたので、今の課題をしっかりと持ち帰って改善していきたいと思います。

■阪口晴南選手 (WedsSport ADVAN GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 5位】

序盤は良かったものの、ロングステイントということもあって終盤は苦しい内容になりました。その中でも、ピット作業もストラテジーも良く、高い次元でプロフェッショナルな戦いができたと思っています。ただ、裏を返せばこれが今の自分たちの限界なので、決勝でポジションを落とさないためにもパフォーマンスアップは必須です。予選の強さが戻ってきたのは良かったですし、ポイントも獲得できたので、中盤以降はランキングも少しずつ上げていきたいです。

■中崎敬介 [横浜ゴム タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発 1 グループ・リーダー]

GT500/300共にポールポジションを獲得できたことは素直に大変嬉しく思っています。セパンの読みづらいコンディションの中で、上手く予選にマッチしたタイヤを選ぶことができました。オフシーズンテストも含め、これまで試行錯誤して取り組んできたことが少しずつ実を結び始めている証だと感じています。

決勝での路気温は想定範囲内だったのですが、19号車のタイヤ内部の温度は想定よりも高くなった印象です。周回を重ねるにつれグリップが下がってきたことで、滑りの影響がタイヤの発熱に繋がった可能性もあり、今後の課題として改善に取り組んでいきたいと考えています。